



人権教育講演会

6/16 第一福田幼稚園

子育ての中で今大切にすること・大切にしておきたいこと パートⅡ
～幼児との生活を通して～

保護者の感想には、子どもへの声掛けの仕方が大事である、しつけという言葉に感わされず、いい意味で気楽に子育てをしようと思ったなどがありました。幼稚園最後の夏休みに、親から褒められた、役に立ったと言われるように、子どもと一緒に楽しみたいという思いをもった保護者もいました。

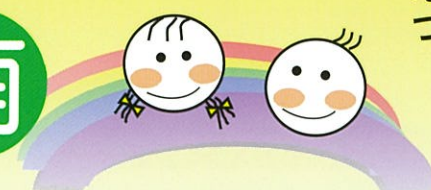


講師 元倉敷市立幼稚園園長 加藤 和子 先生



絆 福南

きずな



3年ぶりに総会を開催しました!



6月4日(土)19時から倉敷市福田南公民館で、令和4年度人権学習推進委員会総会が推進委員、教育委員会関係者等の出席により開催されました。対面開催としては3年ぶりとなりました。令和3年度事業実績報告及び決算・監査報告を行った後、新年度役員を選出し、令和4年度事業計画案・予算案について審議し、承認されました。

持続可能な社会とは ～私たちのまち、水島から考える～

本年度は、感染症対策として6年生が体育館で、5年生と保護者の方々はリモートで講演を聞くという形で実施されました。近年よく耳にするSDGsと、地元である水島とを絡めたお話をいただき、児童は身近な問題として捉えることができました。塩飽研究員の話、メモを取りながら一生懸命に聞く児童の姿が見られ、「自分たちの住んでいる水島だが知らないことがたくさんあった。」「総合的な学習の時間の学習を通して、自分たちでできることを考えていきたい」などの感想をもつことができました。

第一福田小学校 10/22



講師 みずしま財団研究員 塩飽 敏史 先生

第三福田小学校 校内なかよし週間の取組について

第三福田小学校では、1学期と2学期に、それぞれ1回ずつ、校内なかよし週間の取組を行っています。今年度も7月4日から7月8日まで第1回のなかよし週間を行いました。なかよし週間のスローガンは、「一人ひとりのよさがかがやかせ笑顔できれいな虹をひびかせよう」です。このスローガンのもと、一人ひとりの人権を大切にすることについて、それぞれの学年や学級の実態に合わせて取組を行いました。



三福リング

まず、環境づくりとして、7月の今月の歌「こころのドア」を全校で歌い、図書館には人権図書コーナーを設置しました。そして、人権に関する本の読み聞かせ、全校のみんなの似顔絵と名前がのった三福リングの作成、縦割り班活動のペア学年で互いのことを教え合うフレンドリーレター、学級のよいところを短冊にしての掲示、ナイスカードの発信、人権ポスターや人権標語の作成などを行いました。一人ひとりのよさや多様性を認め合い、みんなで力と心を合わせて課題を解決していこうとする意欲や実践力を身に付けて、人権意識を高めていきたいと思っています。

令和4年度 福田南中学校区人権学習推進委員会

事務局員	事務局長	推進委員	監査委員	副会長	会長
佐々木 聖美 樹	浅野 貴子	脇本 守彦	濱田 信貴	佐々木 晃一	門田 浩二
奥田 和彦	田尾 清彦	岸田 俊彦	鳥越 秀男	松井 博之	橋野 栄一
阪本 裕子	田中 裕子	林本 裕子	松本 裕子	藤木 裕子	山口 裕子
山本 裕子	尾越 裕子	三宅 裕子	渡邊 裕子	吉田 裕子	藤井 裕子
手島 裕子	岡本 裕子	小松 裕子	大森 裕子	乾 裕子	日笠 裕子
稲角 裕子	小島 裕子	馬場 裕子	鈴木 裕子	瀬木 裕子	江崎 裕子
大越 裕子	折原 裕子	宗市 裕子	十子 裕子	大輔 裕子	宗市 裕子

視察先

倉敷市立倉敷支援学校
さん太しんぶん館

福田・福田南中学校区

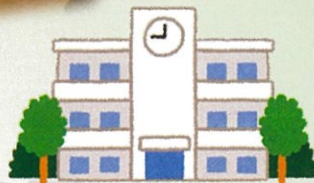
合同研修視察

2022. 9. 21

9月21日(水)、福田中学校区と合同で研修視察を行いました。

倉敷支援学校では、まず特別支援教育の役割や目的について教頭先生から講義をしていただき、その後実際に授業の様子を見学しました。

さん太しんぶん館では、新聞の製作工程について理解を深めながら、実際の印刷現場を見学しました。



参加者の感想

- ・生徒の自立・社会参加のために考え抜かれた教育システムに感心した。また先生方はたいへんな苦勞をされていることが実感できた。(倉敷市立倉敷支援学校)
- ・個性を生かすのはたいへんだろうと思うし、子ども達が社会に出てどうなるのか、子ども達への気遣いが必要と強く感じた。(倉敷市立倉敷支援学校)
- ・ここ数年行ってみたいと思い続けていた支援学校の見学ができてとてもありがたかった。子ども達はとても素直だった。(倉敷市立倉敷支援学校)
- ・記事にするまでの記者の苦勞、特に「裏取り」を完璧に行うことを求められていることを知り、読者として安心した。(さん太しんぶん館)
- ・新聞作りのたいへんさと新しいシステムに改めて驚いた。(さん太しんぶん館)

福田南公民館人権教育講演会

福島に想いを寄せて

9.3
(土)

～原発事故が奪った私たちの暮らし～



津軽三味線奏者 **えびな うま 先生**
蝦名 宇摩 先生



保養とは…

放射線の影響があまりない地域で一定期間過ごすことによって、子ども達の免疫力を回復させる合宿のようなもの

～講師プロフィール～

鹿児島県奄美大島出身。16歳のとき津軽三味線を聞き、その音色の美しさと激しさに惹かれ、津軽出身の蝦名伴主氏に師事。2011年3月に福島原発事故による放射能の影響を恐れ埼玉から母子避難し、母の実家がある岡山県へ移住。現在、瀬戸内市の自宅で民謡教室を開きながら福島の子ども達を岡山へ招く「せとうち交流プロジェクト」を立ち上げ、毎年夏に保養キャンプを開催している。

<参加者の感想>

- ・埼玉県から岡山県への移住、母としての決断。簡単に話されていたけれどすごい葛藤があったのだらうと思います。その時の決断が今の保養活動や講演活動の源になっていると感じました。
- ・岡山で日常生活を送っていると、福島がだんだん遠くなります。このように講演会で福島の方々の生活を聞くと、現在進行形である原発事故を身近にはっと気付かされます。
- ・風評被害などもあり、今だに苦しんでいる人達や東北の子ども達の保養などに継続して取り組んでいる人達に頭が下がる思いです。自分が何が出来るか…を考えていきたいと思っています。

<福田南中学校区人権啓発テーマ>

～きずこう人権 なくそう差別 すべての人に愛と笑顔のある明るい地域～